

地域共生社会の実現に向けた 取組みについて

令和6年8月14日

交野市議会 都市環境福祉常任委員会
重点テーマ所管事務調査報告

調査の概要

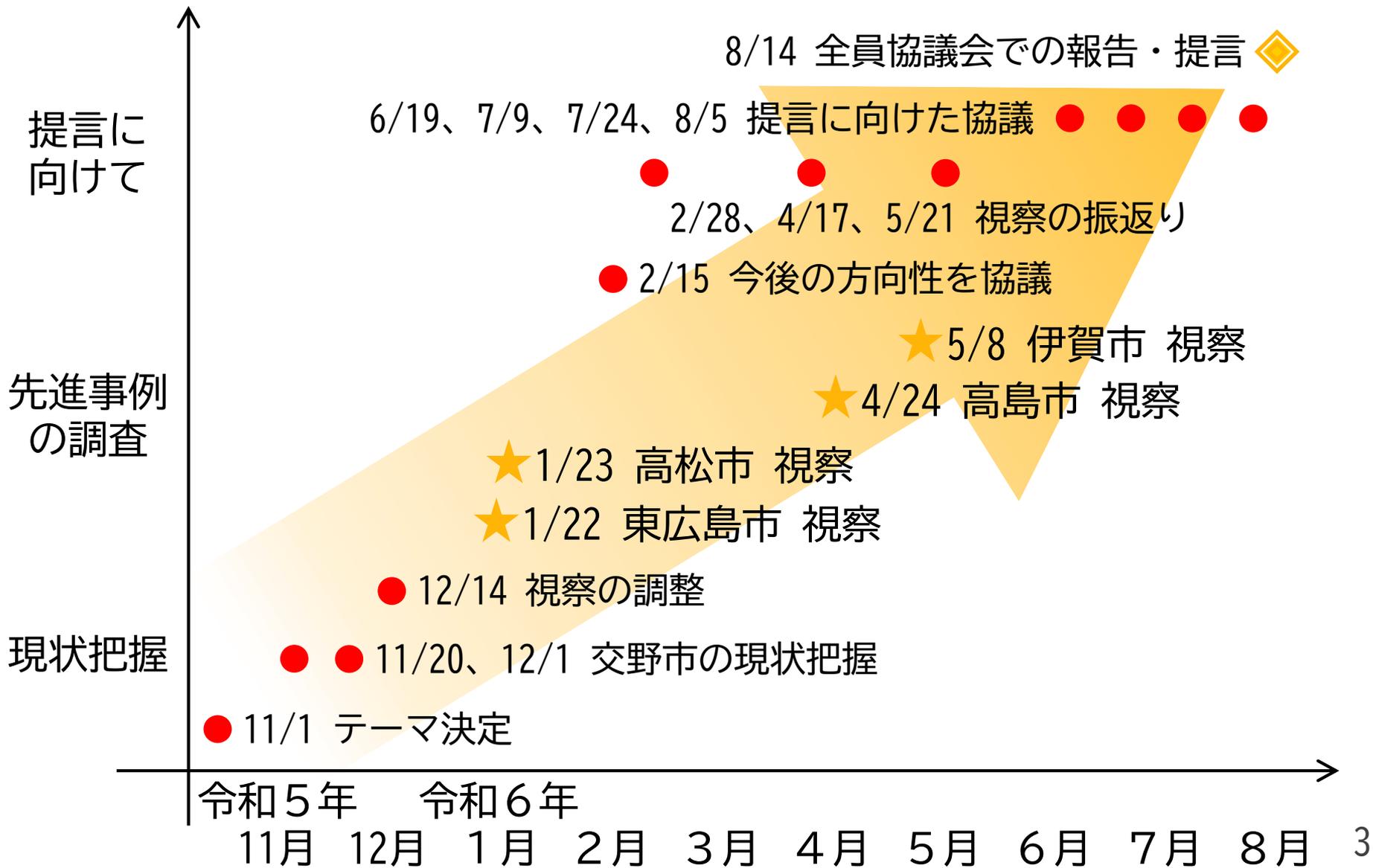
期間：令和5年11月～令和6年8月

調査メンバー：

役職	氏名
委員長	野口 陽輔
副委員長	堀 天地
委員	安部 敬子
	藤田 茉里
	松本 直高
	山下 千穂
	三浦 美代子



調査スケジュール



テーマ選定の背景

- ・ 世代や分野を超えてつながることで、**住民1人1人の暮らしと生きがい**を地域とともに作っていく**社会**が求められている。
- ・ **重層的支援体制整備事業**は、これからの地域福祉の根幹である。
- ・ 障がいがある人たちと共に暮らしていける、**インクルーシブ**なまちづくりが必要である。

➡ 「地域共生社会の実現に向けた取り組み」をテーマに選定

画像は[厚生労働省 地域共生社会のポータルサイト](#)より引用



一人ひとりの暮らしと生きがい、
地域をともに創っていく社会へ



社会的背景

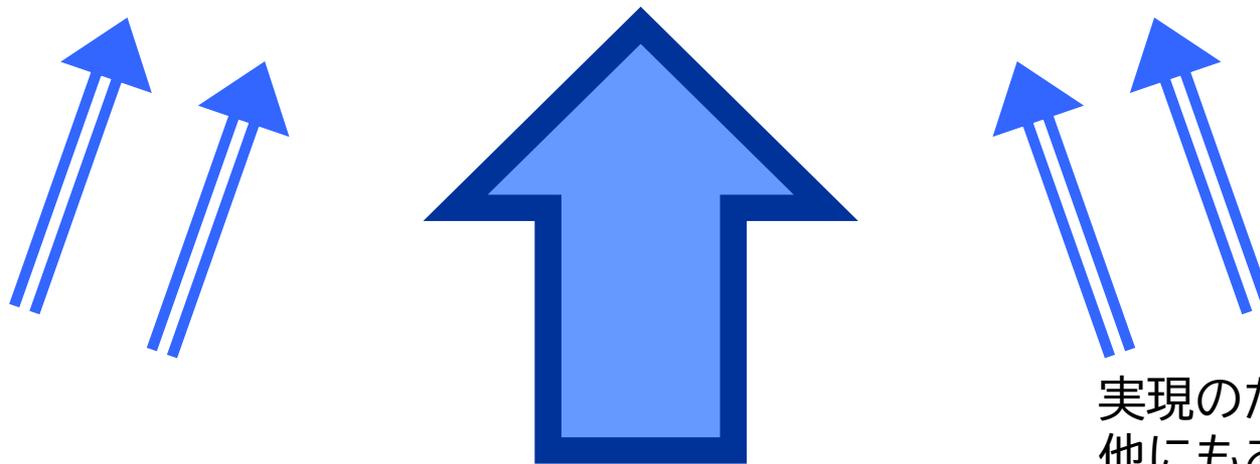


複合化・複雑化する新たな生活困難に対する
支援の仕組み作りが必要

地域共生社会

地域共生社会

理念：全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、互いに支え合いながら活躍できる社会



主な方法として

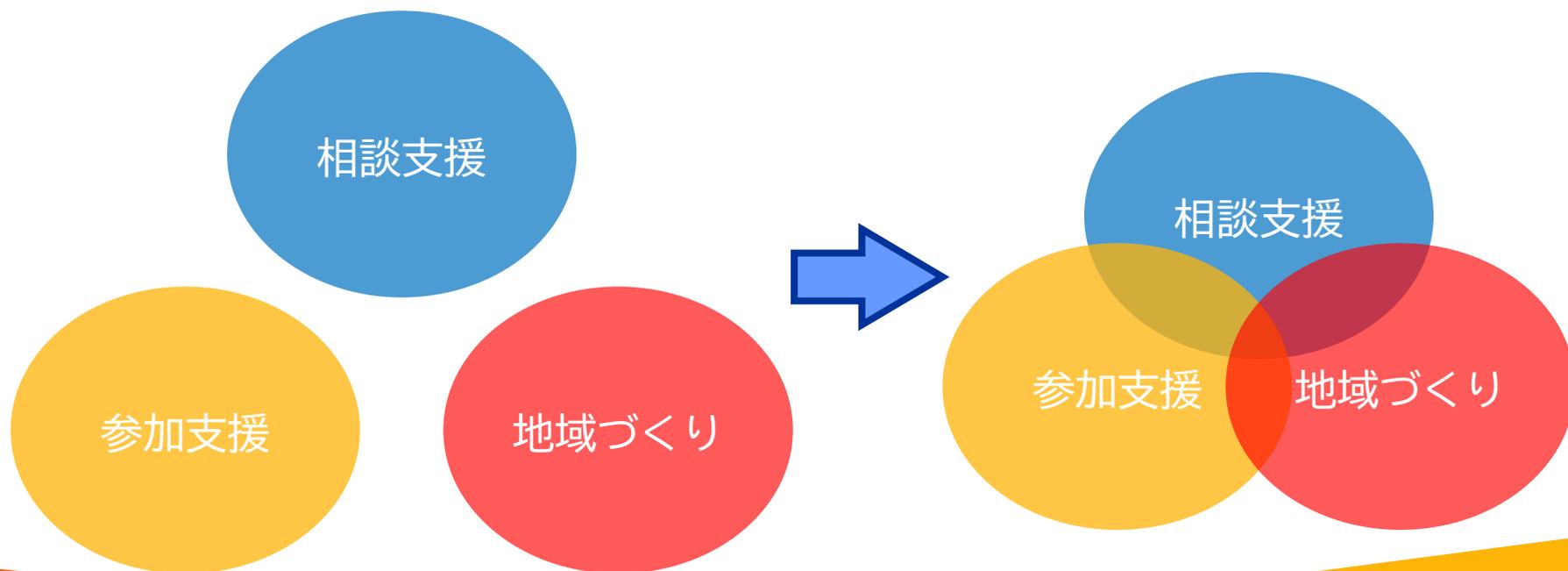
「重層的支援体制整備事業」がある

実現のための方法は他にもあるけれど…

通称「重層」

重層とは

これまでバラバラだった支援をかさね合わせて、
支援の狭間をなくすこと



重層とは

5つの事業を一体的に実施

重層的支援体制整備事業

包括的相談支援事業

アウトリーチ等を通じた
継続的支援事業

多機関協働事業

参加支援事業

地域づくり事業

重層とは

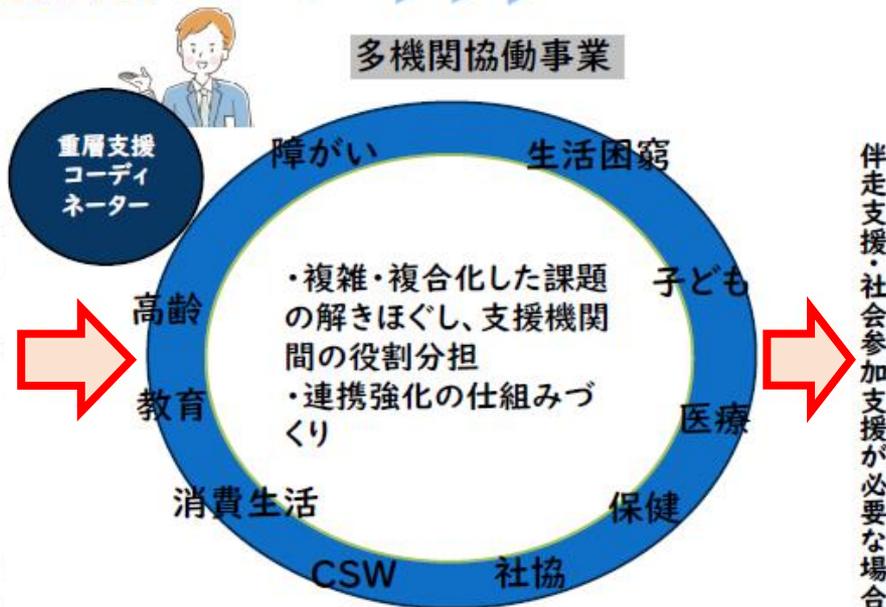
交野市重層的支援体制整備事業のイメージ

包括的相談支援事業



複雑化・複合化している場合

多機関協働事業



伴走支援・社会参加支援が必要な場合

アウトリーチを通じた継続的支援事業

本人との信頼関係構築、別の支援機関を受け入れられるよう支援をする、参加支援を活用しながら伴走支援を行う。

➡「丁寧につなぐ」相談窓口
“まるまど”事業の展開

参加支援事業

かたの×サードプレイス、就労支援、住居支援など既存の福祉サービスのほか、地域の居場所へつなぐなど社会参加に向けた支援。

地域づくり事業



社会参加に向けた支援

重層とは

重層支援コーディネーターを中心に、
さまざまな部署や専門家が力を合わせて
解決策を考える

交野市重層的支援体制整備事業のイメージ

包括的相談支援事業



複雑化・複合化している場合

多機関協働事業

重層支援
コーディネーター



アウトリーチを通じた継続的支援事業

本人との信頼関係構築、別の支援機関を受け入れられるよう支援をする、参加支援を活用しながら伴走支援を行う。
➡「丁寧につなぐ」相談窓口
“まるまど”事業の展開

参加支援事業

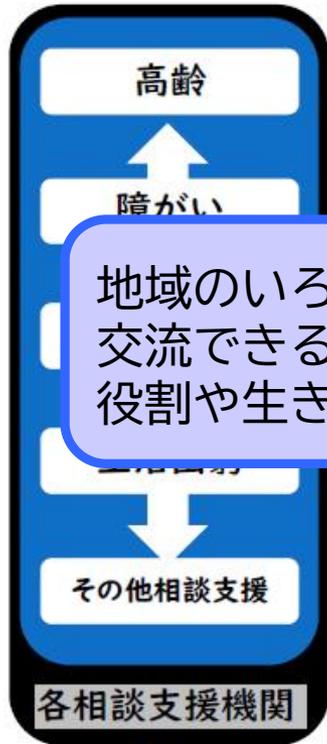
ひきこもりの方など、自分からなかなか相談に行けない方を探し、アプローチし、継続的に支援する

縦割りの窓口だけではなく、
どんな悩みごと、
いったん丸ごと受け止める

重層とは

交野市重層的支援体制整備事業のイメージ

包括的相談支援事業



複雑化・

場合

重層支援
コーディネーター

多機

障がい

生活困窮

子ども

医療

保健

CSW

社協

・複雑・複合化した課題
・支援機関
・分担
・の仕組みづ

地域づくり事業



地域での相談・見守りから課題抽出

校区・民生委員・更生保護など



居場所

役割やいきがい

地域・ボラセン・事業所などとその人に合わせた居場所づくり

社会参加に向けた支援

重層支援
コーディネーター

仕事やボランティアなどに
結び付け、社会参加に
つなげる

リーチを通じた継
続的支援事業

人との信頼関係構築、別の支援
期を受け入れられるよう支援を
、参加支援を活用しながら伴
援を行う。

「丁寧につなぐ」相談窓口
「ましまど」事業の展開

参加支援事業

かたの×サードプレイス、就労支
援、住居支援など既存の福祉
サービスのほか、地域の居場所へ
つなぐなど社会参加に向けた支
援。

付走支援・社会参加支援が必要な場合

先進市視察

1月22日

広島県 東広島市

人口：19万7千人

面積：635km²

高齢化率：24.7%

交野市（参考）

人口：7万7千人

面積：26km²

高齢化率：28.3%

4月24日

滋賀県 高島市

人口：4万6千人

面積：693km²

高齢化率：35.9%

1月23日

香川県 高松市

人口：42万人

面積：376km²

高齢化率：28.6%

5月8日

三重県 伊賀市

人口：8万5千人

面積：558km²

高齢化率：34.1%



→ 地域特性の違いから単純比較はできないが、
交野市に有意義な取組みを検討

※Googleマップを元に加工して作成
※人口等の数値はいずれも概数

先進市視察を経て



以下の3点に着目し協議

① 市民の声の拾い方

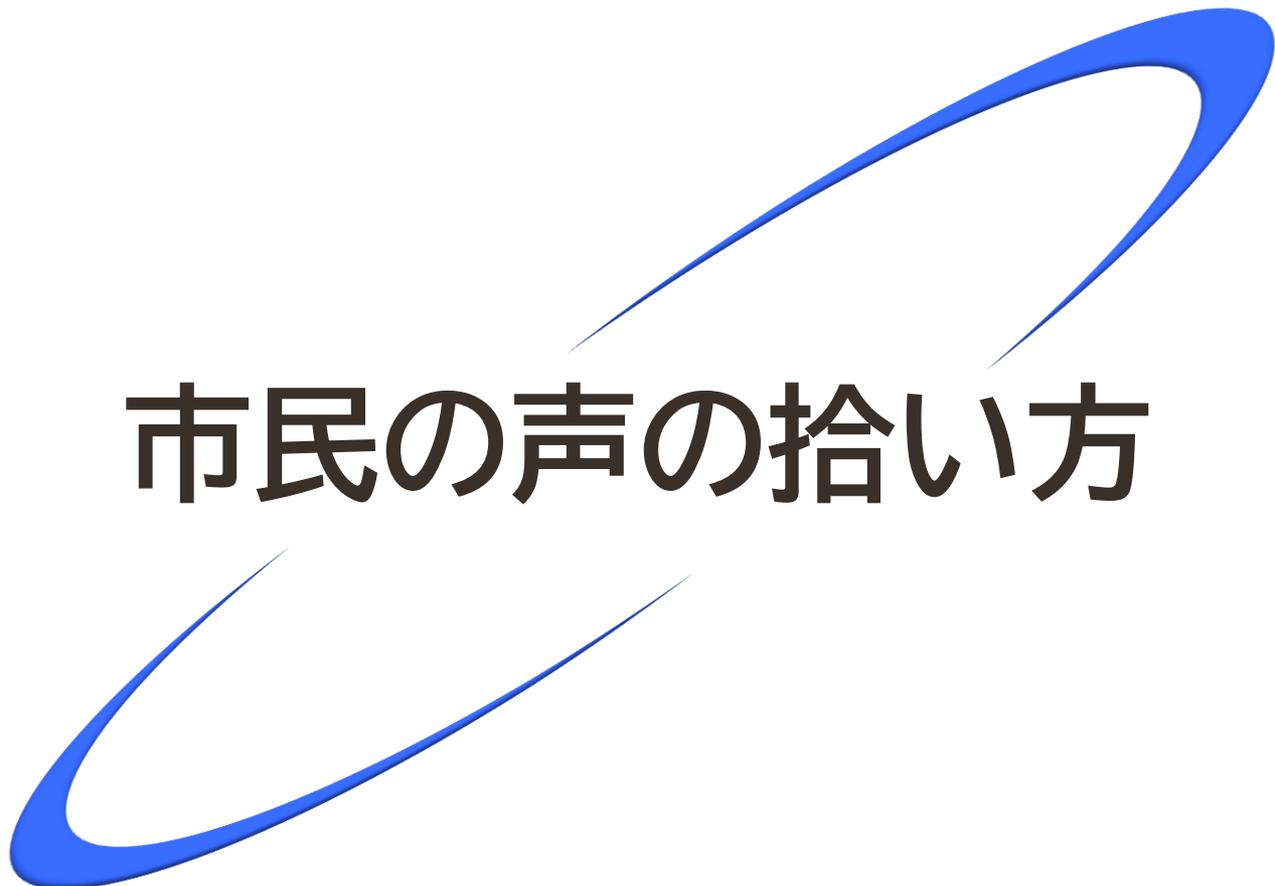
↳ 悩みがあっても、市役所に相談に来るとは限らない

② 解決につなげる体制

↳ 福祉部だけの課題ではない

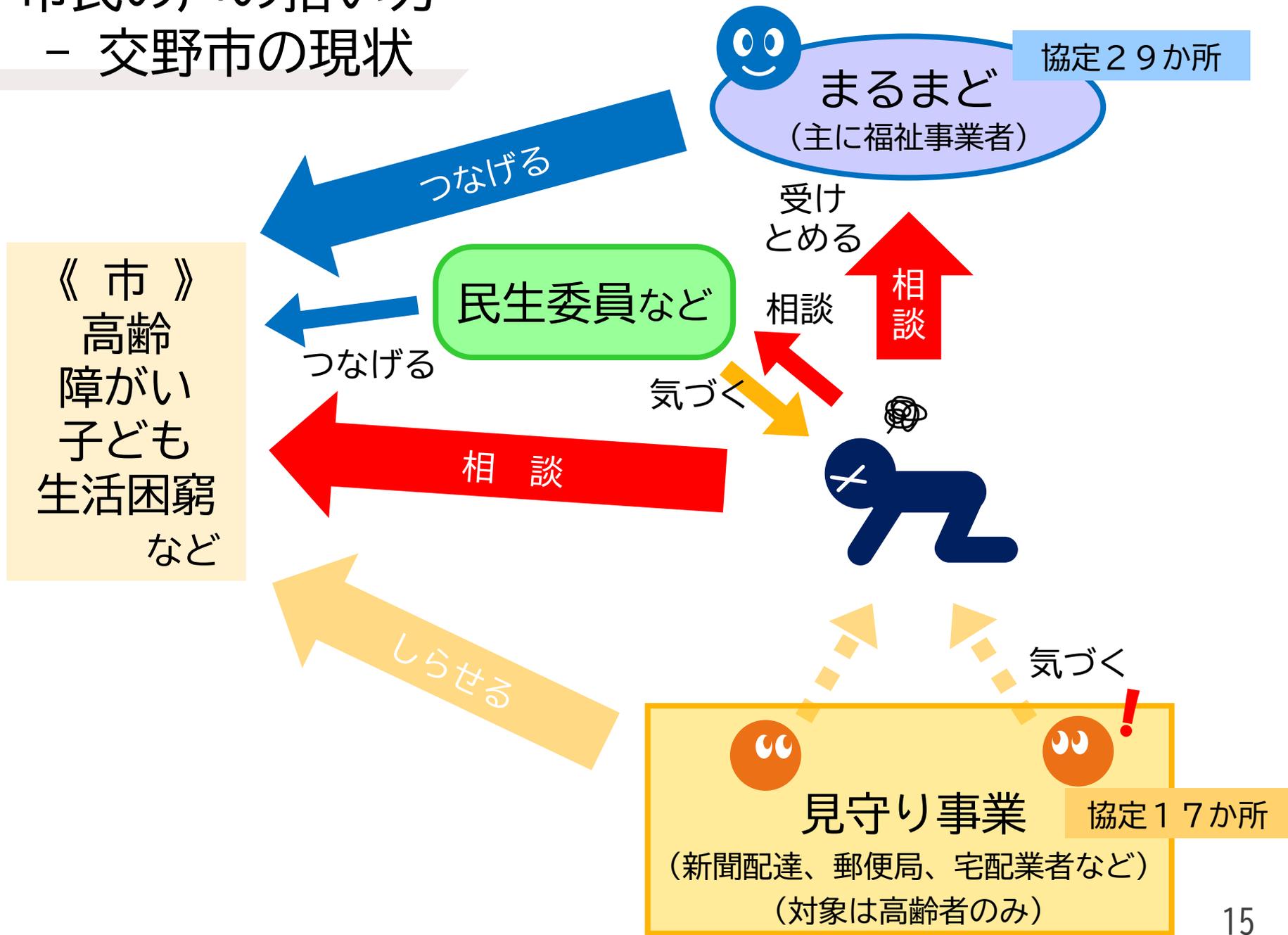
③ 地域や民間事業者との連携

↳ 社会参加の受け皿が必要



市民の声の拾い方

市民の声の拾い方 - 交野市の現状



市民の声の拾い方

- 各市の比較

	市・社協等の取組み	地域等との連携
交野市	市のほか、CSWや社協（地域包括を含む）による相談支援を実施。	福祉施設等による「まるまど」を実施。
東広島市	日常圏域ごとに分野を超えた専門職によるコアネットワーク会議を開催し、情報共有や事例検討を実施。 10人のエリア担当CSWや地域共生推進課でアウトリーチを実施。	「見守りサポーター」（ボランティア）が民生委員と協力し見守りを実施。
高松市	直営のつながる福祉相談窓口を7か所設置。まるごと福祉相談員（社協）は、アウトリーチを担当。	各地区で住民主体の「地域福祉ネットワーク会議」を設置。
高島市	直営の包括支援センターのほかに、委託包括を2か所で実施。	民間事業者と協定し「見守りネットワーク事業」を実施。
伊賀市	民生委員・児童委員や13名の地域コーディネーター（委託）がアウトリーチを含む地域での相談支援を実施。 地域包括支援センター（直営）や生活困窮自立相談支援機関（直営+委託）も受け皿となる。	各自治協で地域の関係者や企業による「地域福祉ネットワーク会議」を設置。

市民の声の拾い方

- まとめ

- 市や社協等による対応は、
どの自治体も精力的に取り組んでいる。
→地域や民間事業者との連携内容に差が出ている。
- 交野市の **まるまど** は先進的な取り組みであり、現在29か所の事業者が参画しているが、**福祉事業者が多い**。
- 今後はアウトリーチ等、能動的な取り組みが重要。
→高島市の **見守りネットワーク事業** は特に好事例。
 - ↳ 新聞配達、郵便局等、77の**民間事業者と協定**を結び、異変を感じた事案を行政に連絡してもらっている。
事業者向けの**研修も実施**している。
- ⇔交野市にも見守り協定はあるが、対象が限定的。
- 対面や電話だけでなく、時代に合ったツールも必要。

市民の声の拾い方

- 市への提言

まるまど

- 今後、薬局や喫茶店等にも協力いただき、さらなる事業展開を進めるべき。→ **小さい「まるまど」**

見守り事業

- 高島市の見守りネットワーク事業を参考に、**意見交換会や研修**を開催するなど、事業の強化を求める。
 - ↳ 相互理解により事業をブラッシュアップする。

新たな相談ツール

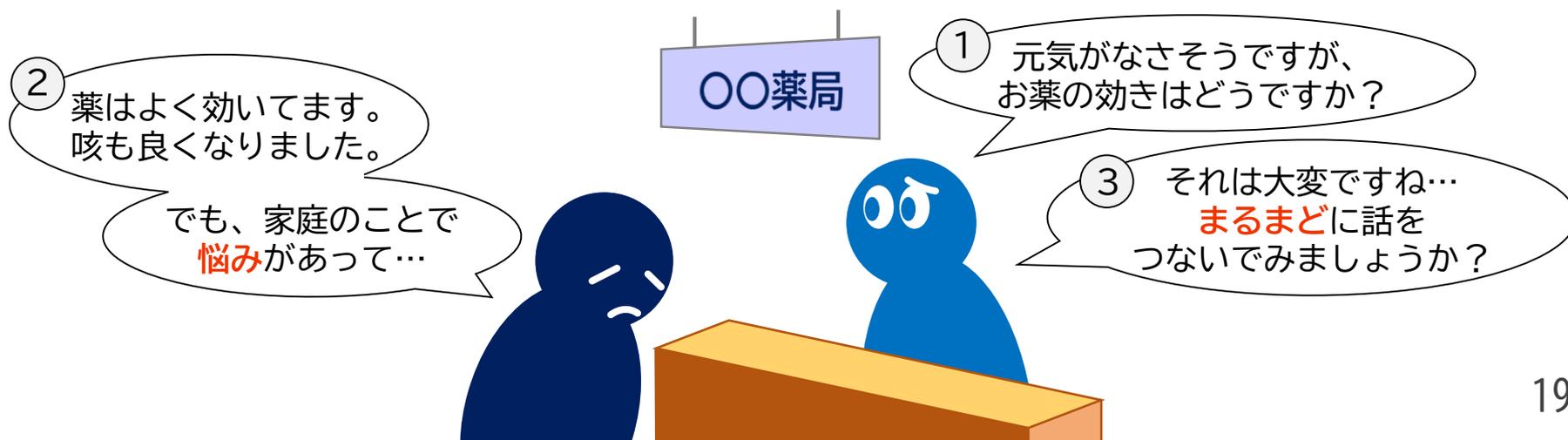
- SNSやAIチャット等の活用を求める。

市民の声の拾い方

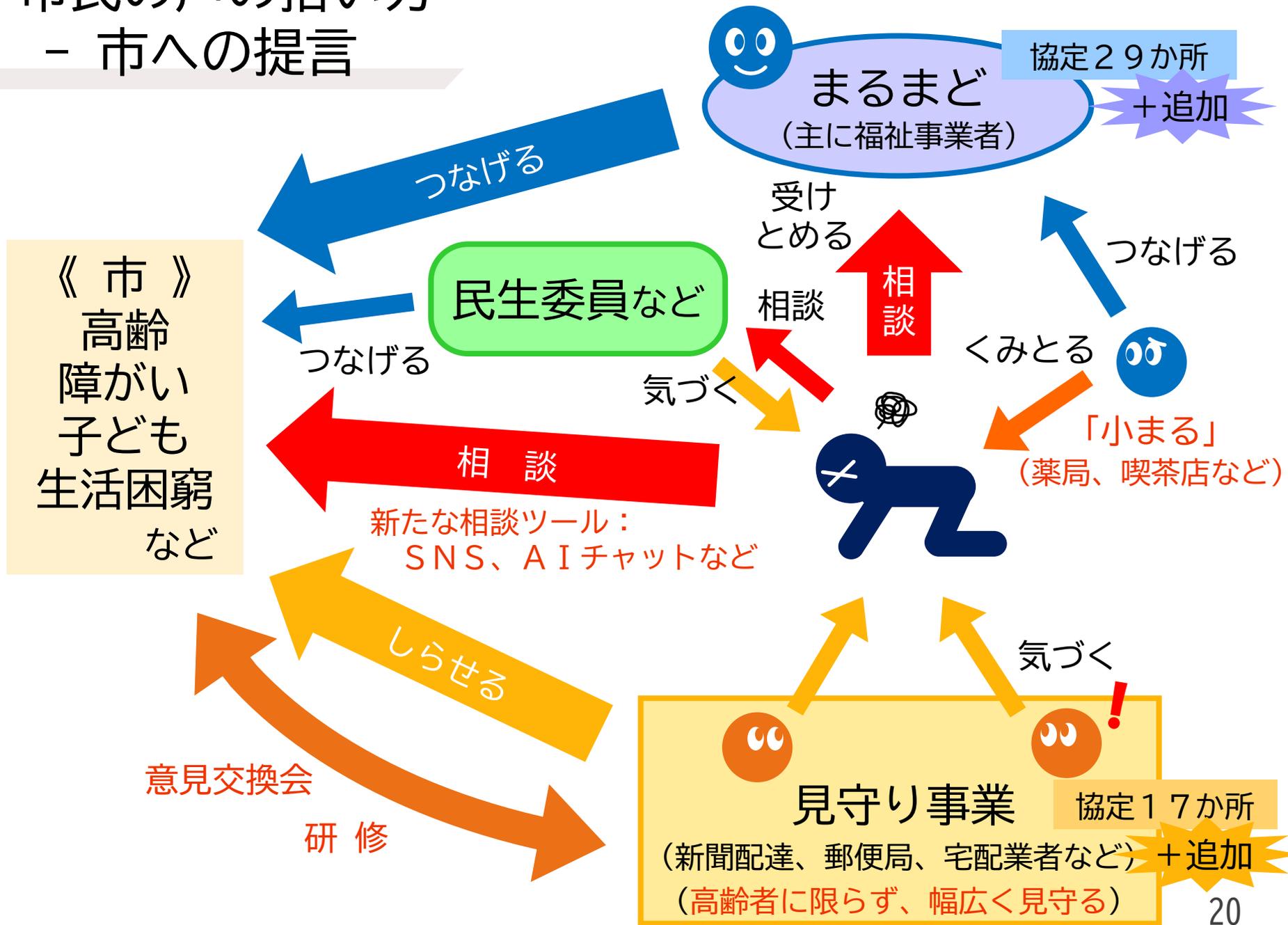
- 市への提言

小さい「まるまど」^こ（略して「小まる」）について

- ・「まるまど」（身近な民間事業者が市民の声を受け止め、市につなげる窓口事業）を、さらに展開するもの。
- ・ステッカーは掲げず、気軽に参画してもらう。
- ・薬局、喫茶店など接客業の会話の中で、市民の声を意識してくみ取ってもらう。
- ・「まるまど」の事業内容を周知することで、市民の声を「小まる」から「まるまど」につないでもらう。



市民の声の拾い方 - 市への提言

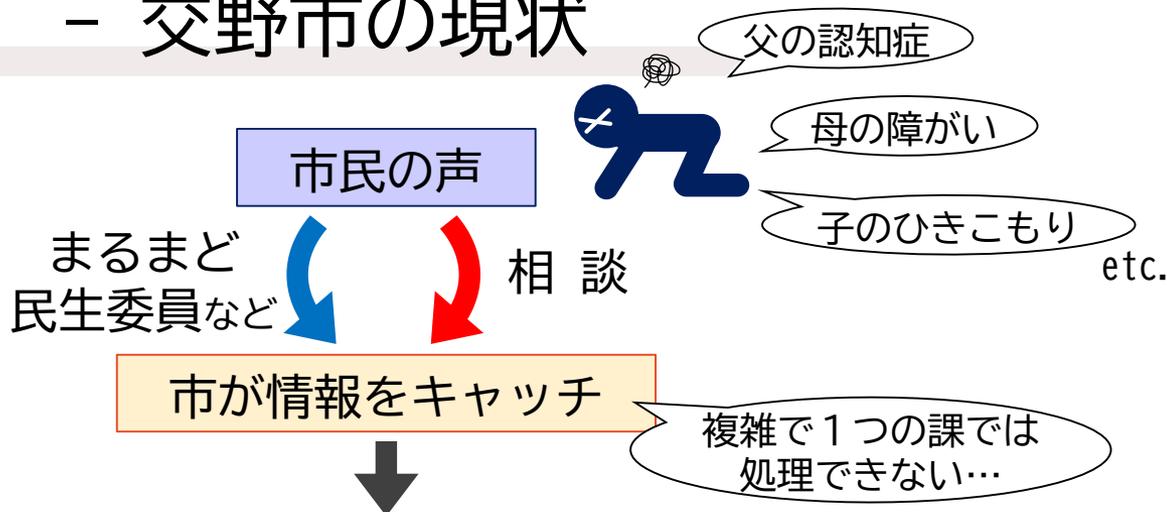




解決につなげる体制

解決につなげる体制

- 交野市の現状



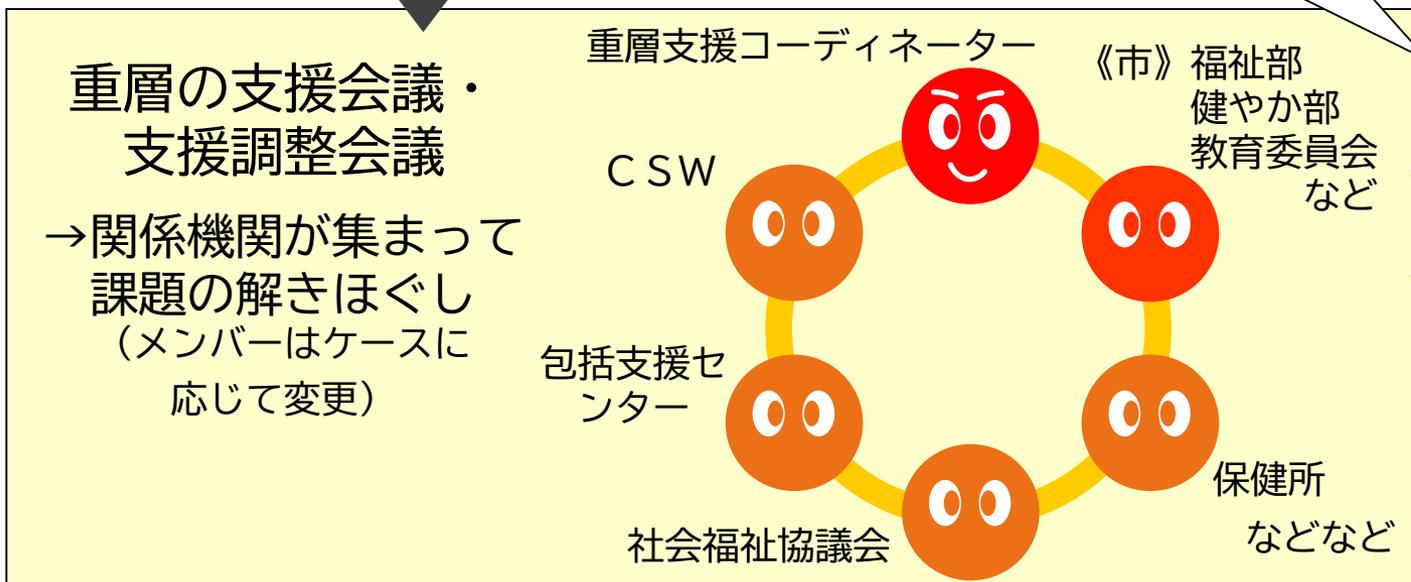
重層支援 コーディネーターとは？

- ・福祉部と社協に1名ずつ配置
- ・課題の情報整理をしたり、支援の方向性や関係機関の役割分担を調整したりする

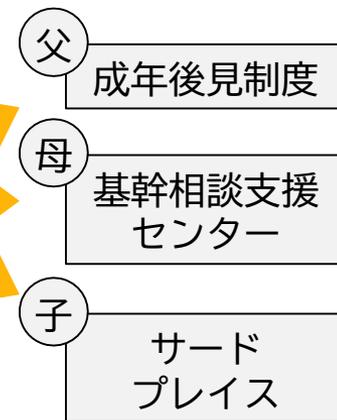


重層支援コーディネーターが
情報を整理し、会議を開催

解決につなげる！



個別のケースに
応じた参加支援、
継続的支援など



解決につなげる体制

- 交野市の現状

重層ネットワーク会議

市（福祉部・子育て支援課・健康増進課・こども家庭室・
指導課・青少年育成課・人権と暮らしの相談課）
社協、包括、訪問看護ステーション連絡会、介護支援専門員協会

→庁内連携の仕組みづくり、重層の方向性・課題の確認、
各取組みの検証を行う

支援会議・支援調整会議と違い、
個別のケース（個人情報）は
取り扱わない

解決につなげる体制

- 各市の比較

交野市	第4期地域福祉計画で「オール交野の地域福祉ネットワーク」を重点的取組みに位置付け、市長の施政方針では主要な取組みのひとつに挙げられている。 重層支援コーディネーター（市・社協）が多機関協働事業につなげる。
東広島市	最上位計画である総合計画に地域共生社会を盛り込み、また、地域共生社会推進条例を制定。 複合化・複雑化した事例は、HOTけんステーション（地域共生推進課内）が調整し、HOTけん会議を開催後、各事業につなぎ直す。
高松市	地域共生社会を、市の重点施策の1つに掲げ、各局・課の長による地域共生社会推進プロジェクトチームを設置。 職員研修に力を入れ、連携強化や意識醸成している。
高島市	地域生活つむぎあいプロジェクトのもと、地域生活つむぎあい会議（学識経験者や民生委員、医師会、商工会、NPOなど）や庁内連携つむぎあい会議（33部局が参画）を設置。 関係機関の連携促進ツールとして、つむぎあいシートを活用。
伊賀市	支援会議として地域ケア会議を設置。 福祉部局・社協だけでなく、必要に応じて税や教育部局も参加。

解決につなげる体制

- まとめ

- ・ 個別ケースについて、支援会議・支援調整会議を経て、参加支援や継続的支援につなげることができている。
- ・ **重層支援コーディネーター**は、2人体制で負担が大きいのではないか!?
- ・ 一方で、**重層ネットワーク会議の参加部局が限られている**。
 - 高島市では33部局が参加している一方で、交野市では福祉部・健やか部・教育委員会などのみ。
 - 重層について、**全庁的な理解を得られていない**のではないか!?

↳ どのような取組みがあるか？
他の部局にどのような協力が求められるか？
他の部局にどのような恩恵があるか？

解決につなげる体制

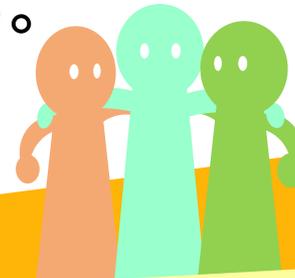
- 市への提言

➡ 重層支援コーディネーターの育成と人材確保を求める。

福祉部だけの
課題じゃない！！

➡ 地域共生社会の推進を、
条例や市長の重点施策に位置付け、
市全体として取り組む意識の醸成が必要。

➡ 重層ネットワーク会議を全庁的な会議にし、
さまざまな部局が、解決への提案をしたり、
積極的な情報提供をしたりできるよう、
強固な連携体制づくりを求める。





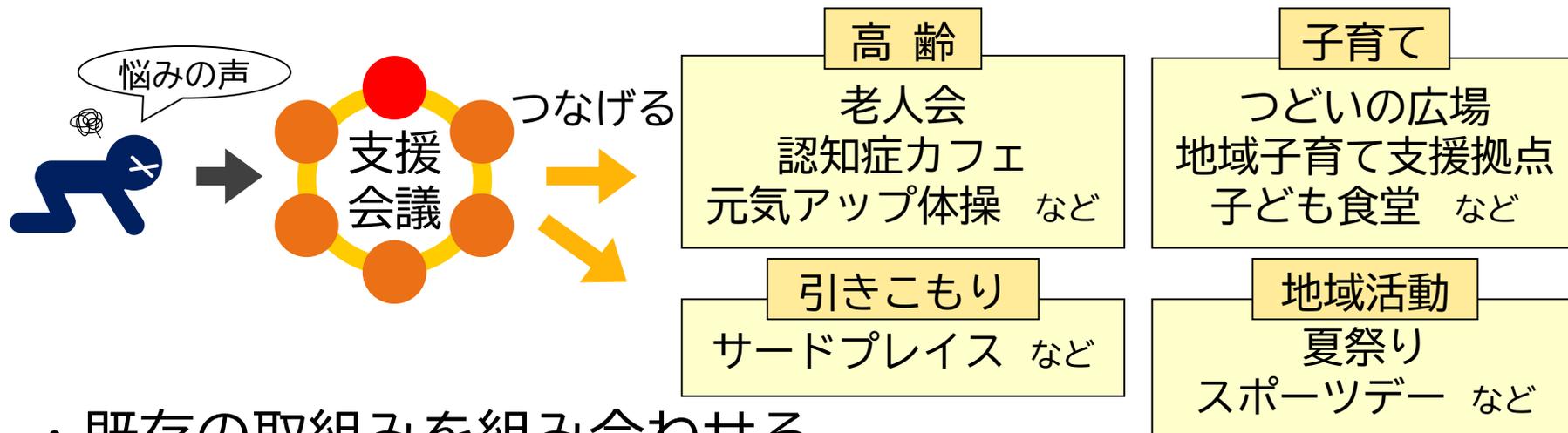
地域や民間事業者との連携

(参加支援事業・地域づくり事業)

地域や民間事業者との連携 (参加支援事業・地域づくり事業)

- 交野市の現状

- ・ 既存の地域資源につなげる。



- ・ 既存の取組みを組み合わせる。
→ 代表例：セタプロジェクト・
クリスマスプロジェクト

高齢者施設と認定こども園の世代間交流に、
更生支援として、矯正施設（交野女子学院）
もコラボレーション



地域や民間事業者との連携（参加支援事業・地域づくり事業）

－ 各市の比較

交野市	セタプロジェクト：高齢者施設・認定こども園・矯正施設（交野女子学院）のコラボ。
東広島市	高美が丘6丁目ニコニコお助け隊：地域の支え合い活動を実施。市や社協が立ち上げを支援。 コミュニケーションプラス：不登校や引きこもりの経験を持つ若者の居場所づくり。市や社協が立ち上げ・運営を支援。
高松市	orizuruプロジェクト：ホテルの客室に飾る折り鶴をすることで、社会との接点を持つ。委託先の一般社団法人による。
高島市	ふれホップ：テーマ型カフェなど、ゆるやかな伴走支援。 なんでも相談会&みんなの食堂
伊賀市	Fun・Fanプロジェクト：若者会議と連携、全世代の居場所づくり。 だーこキッチン：子ども食堂＋自主学習室。 暮らしの保健室いな：医療従事者が、空き屋を活用し、図書室やカフェなど地域と医療をつなげる取組みを実施。 ひきこもりサポーター養成講座や企業（わたせい）との協働も。

－ まとめ

- ・先進市では、新たな事業を立ち上げて、連携している事例が目立つ。
- ・交野市には、すでに豊富な地域資源があり、これらを活用することで、連携を深められるのではないかと。
 - 伊賀市の **だーこキッチン** のように、既存の自主学習室に、助成金の紹介をしたり、地元農家などをつないだりすることで、「ブックカフェ兼子ども食堂」に発展させた事例もある。
- ・ただし、交野市では高齢者向けや子育て世代向けなど分野ごとに参加者が限定されている傾向がある。

地域や民間事業者との連携（参加支援事業・地域づくり事業）

－ 市への提言

→ 具体的な事例を広報などで紹介することで、地域・民間事業者や市民に周知することを求める。

↳ 「うちの地域でもこんな取組みができるかも！」
「参加してみたい！」と思うきっかけを作る。

→ 既存の地域資源を活用し、世代や属性の壁を取り払うことで、分野を超えた参加支援事業・地域づくり事業の展開を求める。

↳ 地域振興課、社会教育課など、市民団体と接点のある部署が主体となって事業展開を進める。

A large, stylized yellow swoosh graphic that curves around the central text, starting from the top right and ending at the bottom left.

全体を通して…

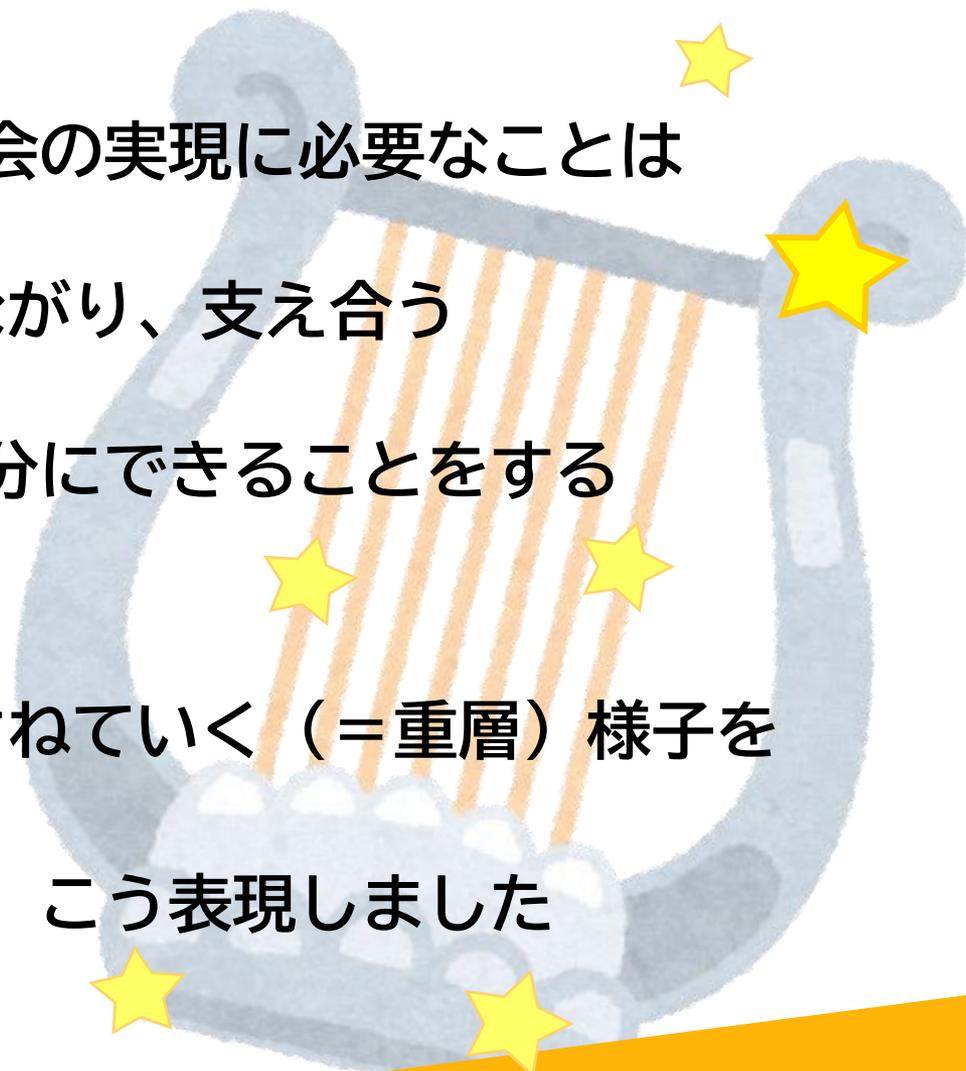
全体を通して

- 市への提言

- 事例によっては非常に繊細であるため、「小まる」を含め、**個人情報**の取扱い基準の整備を求める。
- 重層支援コーディネーターや連携事業の拡充など、必要に応じて、**予算**措置を求める。
- **ネーミング**に工夫し、親しみやすい取組みとすることを求める。
 - ↳ 「まるまど」は、とても良いと思う一方で、「重層的支援体制整備事業」は、難しい印象がある。

A large, stylized yellow swoosh graphic that curves around the text, starting from the top right and ending at the bottom left.

最後に



交野市の地域共生社会の実現に必要なことは

気づき、つながり、支え合う

他人事にせず、自分にできることをする

そうやって、支援をかさねていく（＝重層）様子を

音楽に見立てて、こう表現しました

かたのシンフォニー

交響曲

野音まき合あう

